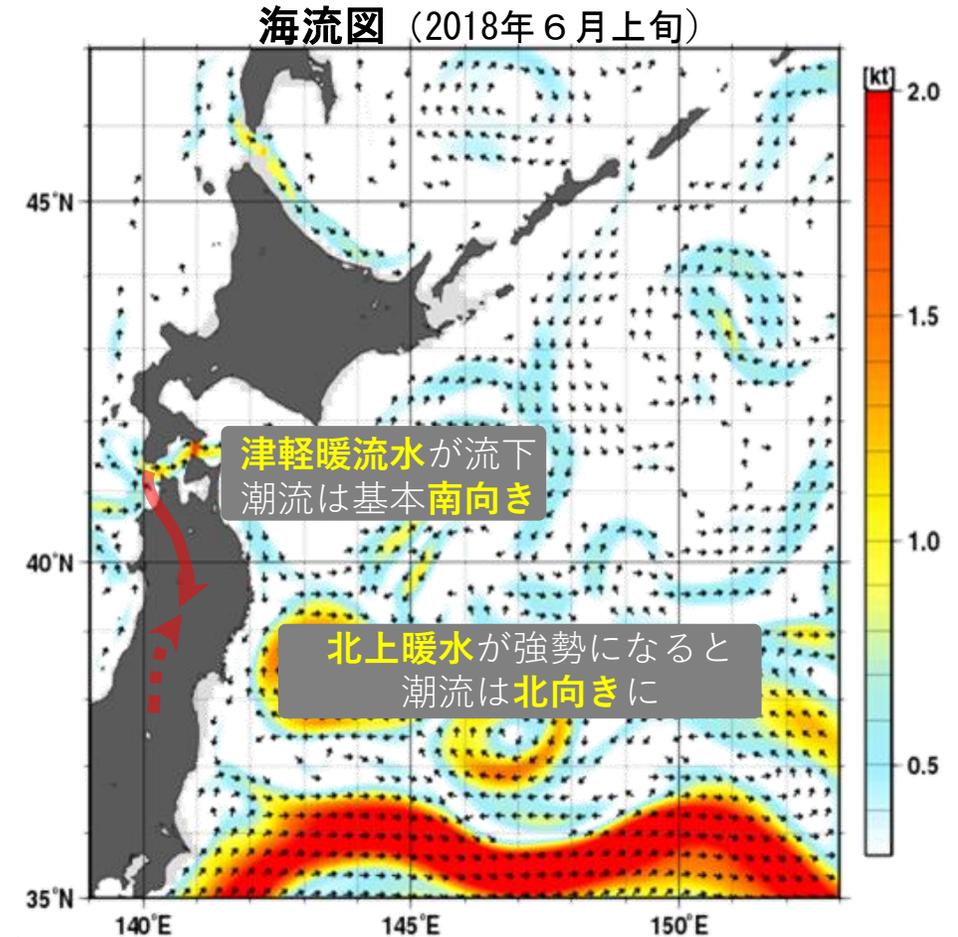


黒潮大蛇行による海洋環境の変化とその影響

令和8年2月
岩手県水産技術センター

漁場環境の特徴 海流・潮流

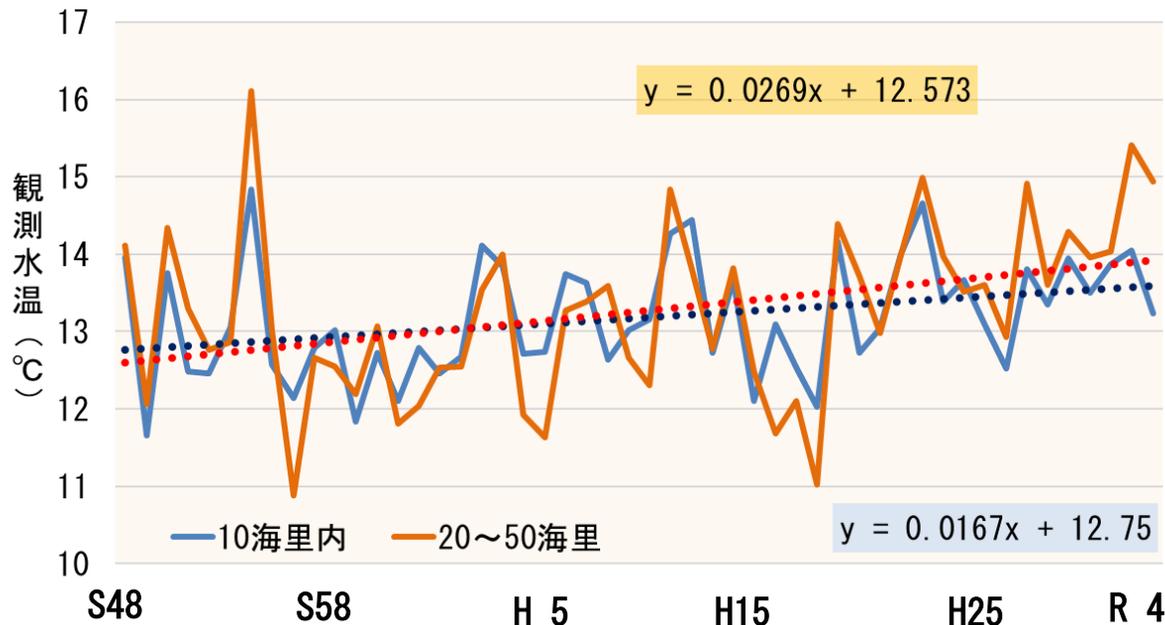
- 岩手県海域では、親潮（沿岸親潮）・津軽暖流・黒潮続流が季節的に消長を繰り返す
親潮（沿岸親潮）：低温・低塩分 津軽暖流・黒潮続流：高温・高塩分
- 沿岸域の潮流は基本的に南向き
沿岸域を概ね周年にわたり津軽暖流水が流下しているため、南潮の日が多い
北上暖水が強勢になると北潮になる



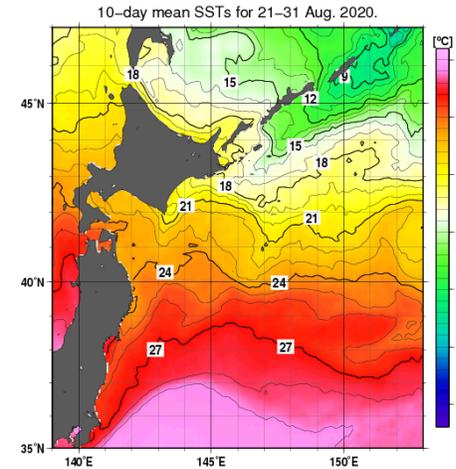
漁場環境の特徴

水温

- 水温は季節変動・年変動が大きい
最低水温期は2～3月頃・最高水温期は8～9月頃
- 水温変動の主な要因は、各海流の季節変動
最低水温期は親潮勢力最大・最高水温期は暖水勢力最大
- 本県海面の表面水温（沿岸・沖合）は上昇傾向
昭和48年～令和4年：沿岸 0.84℃、沖合 1.35℃

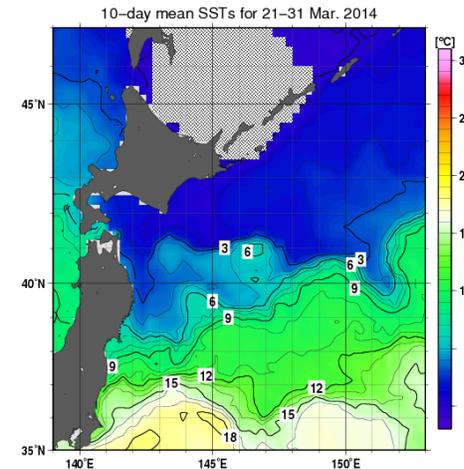


水産技術センター 漁業指導調査船「岩手丸」観測結果



8月下旬

- 沖合を黒潮続流が北上
- 沿岸を津軽暖流水が南下



3月下旬

- 親潮系冷水が南下
- 5℃以下の水温帯が接岸

「旬別表層水温」気象庁Web

近年の高水温化（黒潮大蛇行の影響）

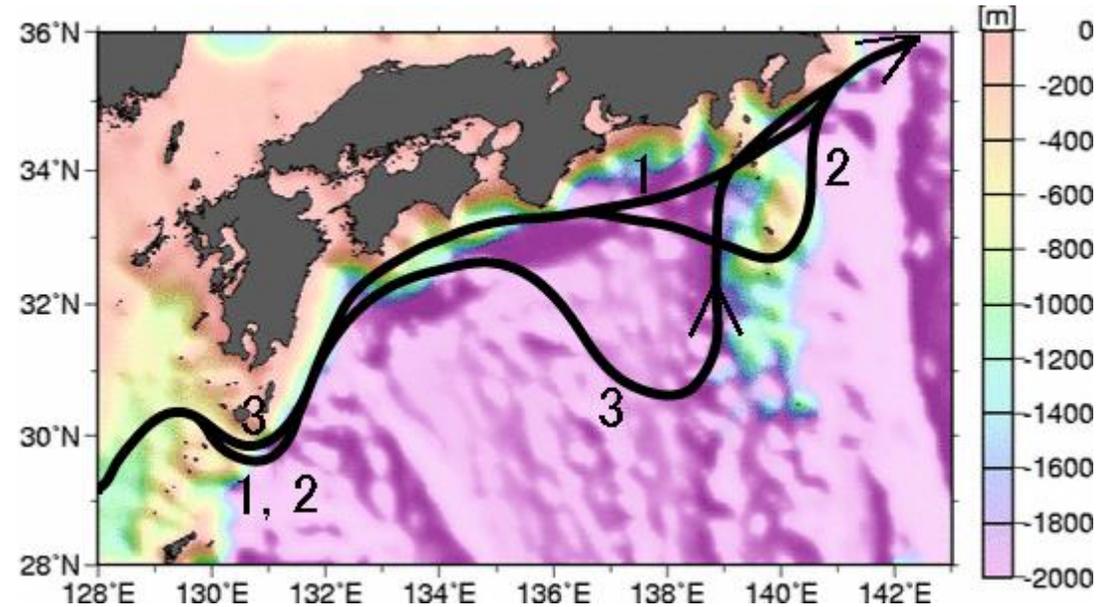
➤ 黒潮大蛇行とは？

- (1) 潮岬で黒潮が安定して離岸していること
- (2) 東海沖（東経136～140度）での黒潮流路の最南下点が北緯32度より南に位置していること

- 1：非大蛇行接岸流路
- 2：非大蛇行離岸流路
- 3：大蛇行流路

➤ 過去の発生状況

発生期間	継続月数
S50年 8月～S55年 3月	4年8か月
S56年11月～S59年 5月	2年7か月
S61年12月～S63年 7月	1年8か月
H 1年12月～H 2年12月	1年1か月
H16年 7月～H17年 8月	1年2か月



本州南岸を流れる黒潮の流路

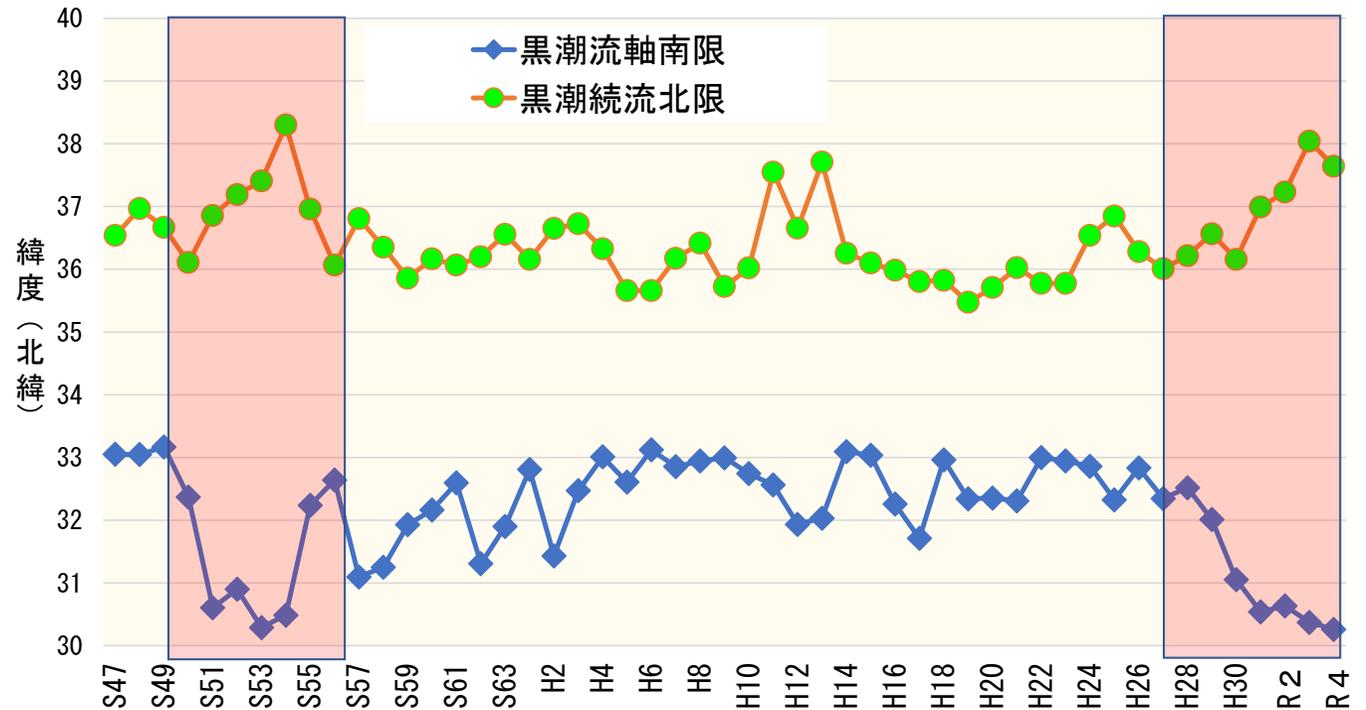
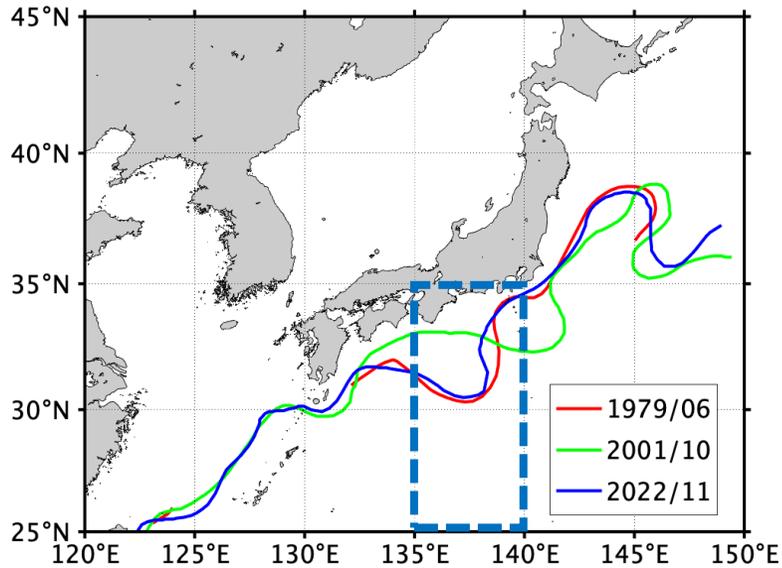
【直近】

H29年 8月～R 7年4月（7年9か月）
⇒S40年以降、過去最長の継続期間

黒潮続流の北偏と黒潮大蛇行の関係

➤ 黒潮続流の北偏による高水温化

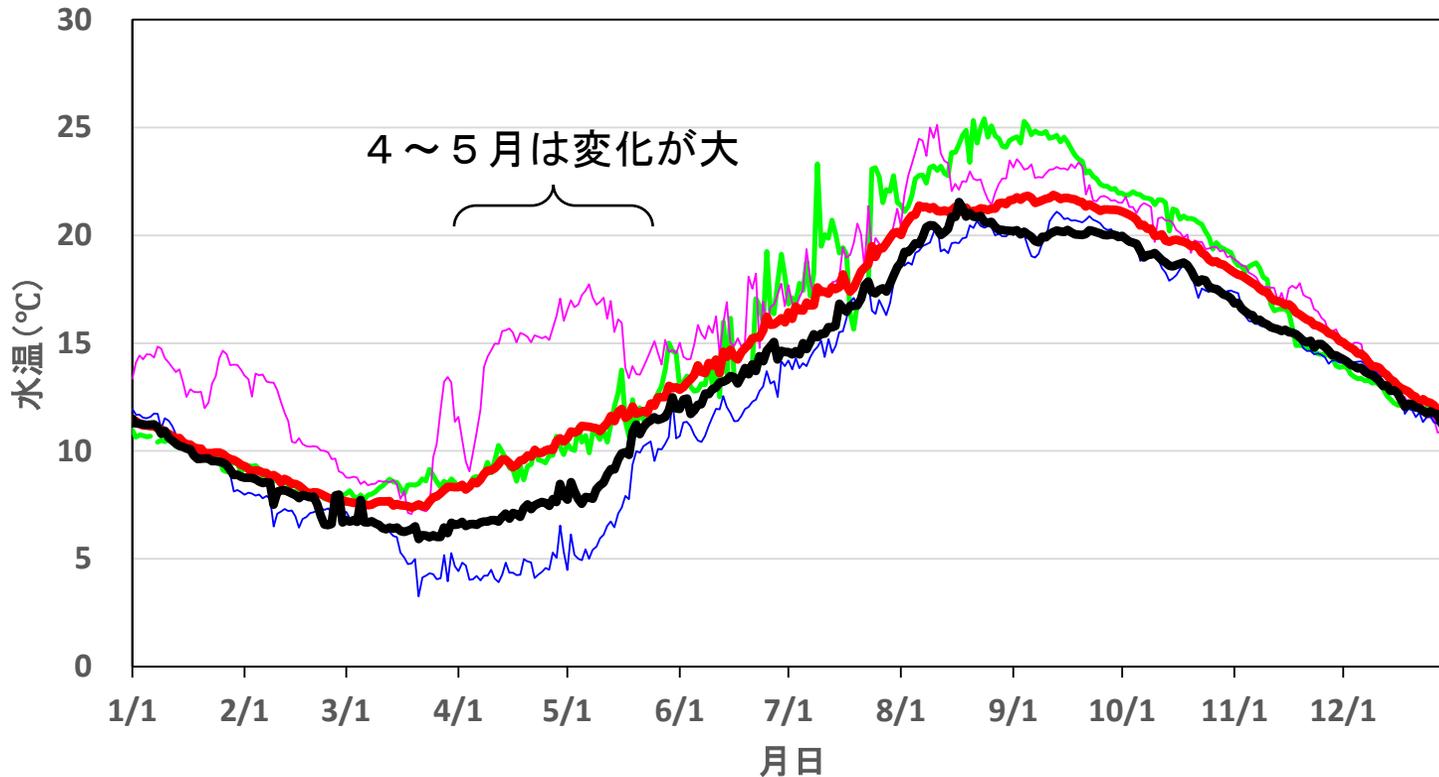
黒潮が大蛇行流路をとるとき、黒潮続流も北偏する傾向があり、三陸海域への暖水波及が強まる。



※ 黒潮流軸南限：東経136度～140度間の最南下点
 黒潮続流北限：東経140度～146度間の200m深の水溫14℃の北限緯度

海水温に与える黒潮大蛇行の影響

釜石湾定値水温データ



※いわて大漁ナビより

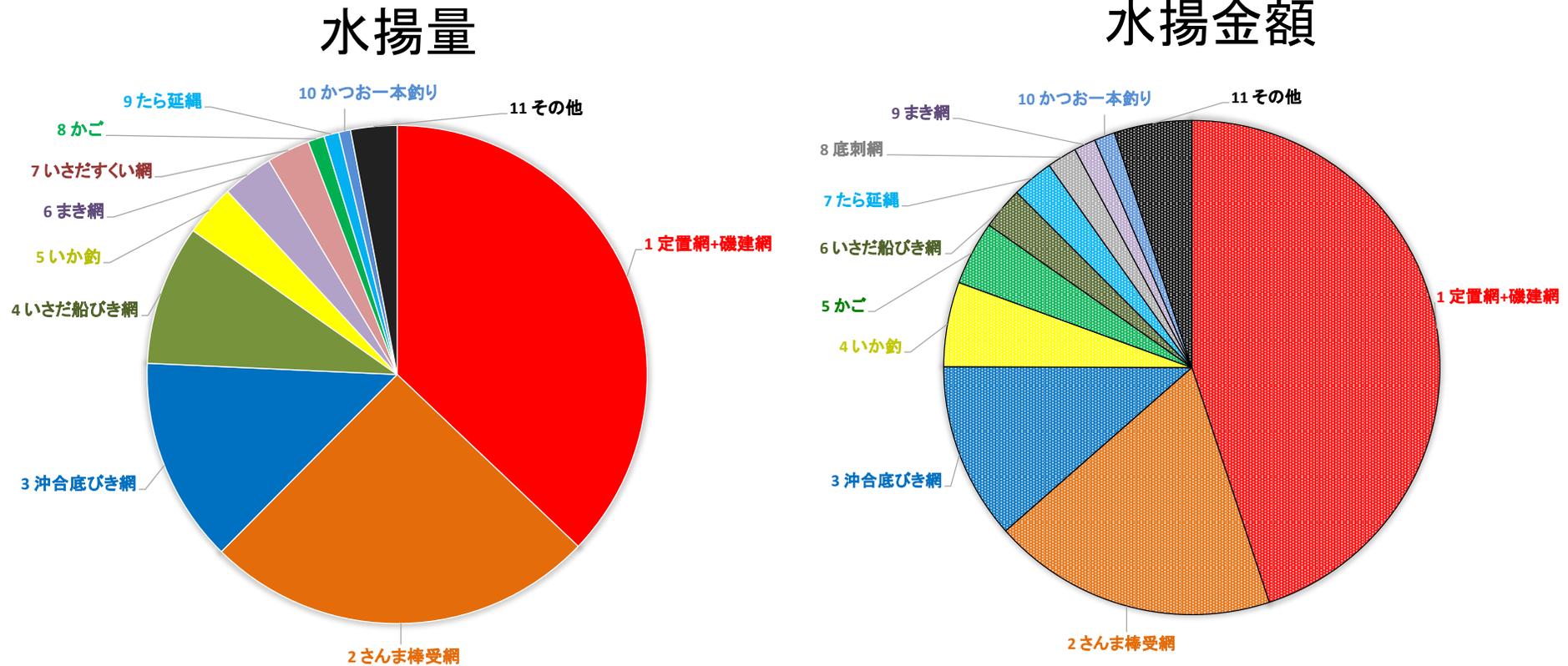
黒潮続流の北偏により大蛇行前より3~11月に1~2°C高い状況

※ 特にR6年は年間を通じて極めて高かった

※ 黒潮大蛇行が終息したR7年4月以降も高めで推移

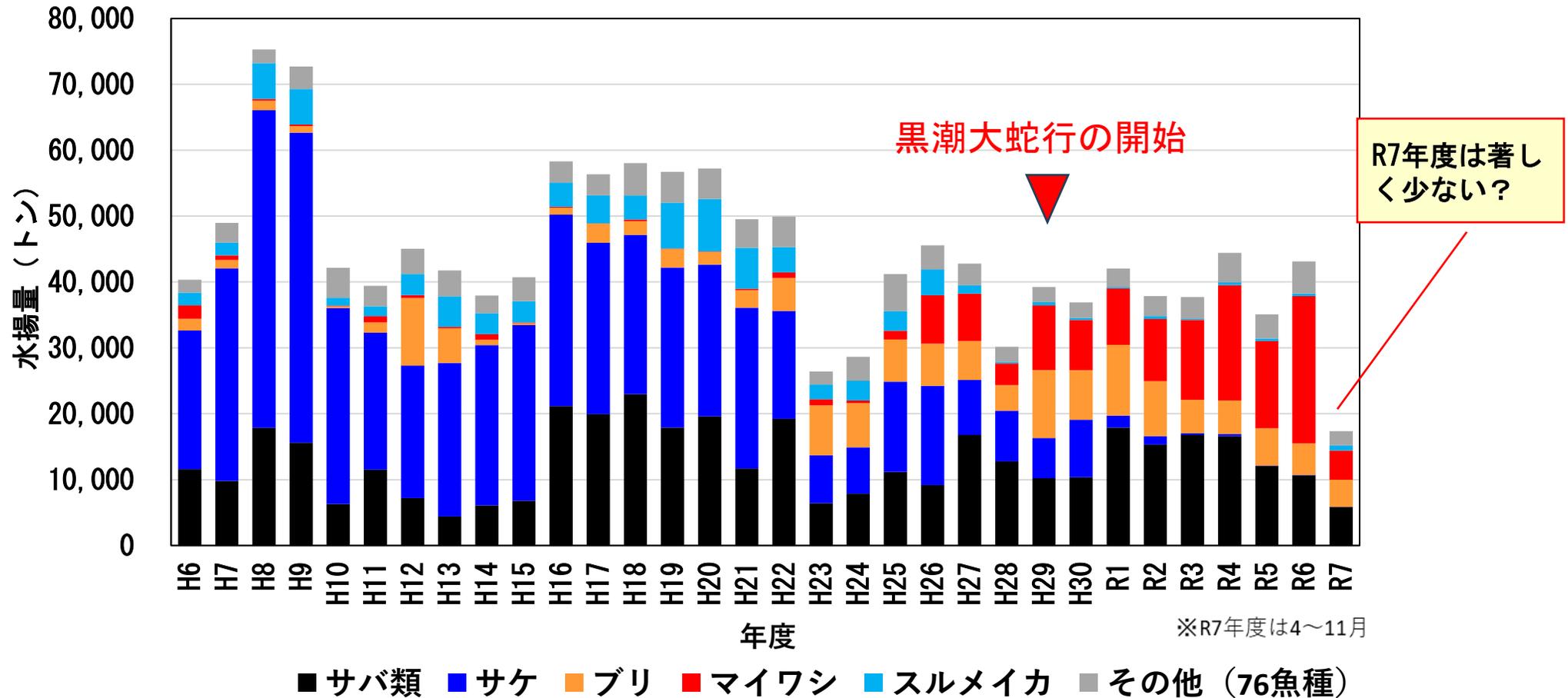
※ H26年は4~5月に冷水を観測

岩手県の漁法別市場水揚量と金額（H6～R7年度合計）



定置網、さんま棒受網、沖合底びき網で
全体の75%程度を占める

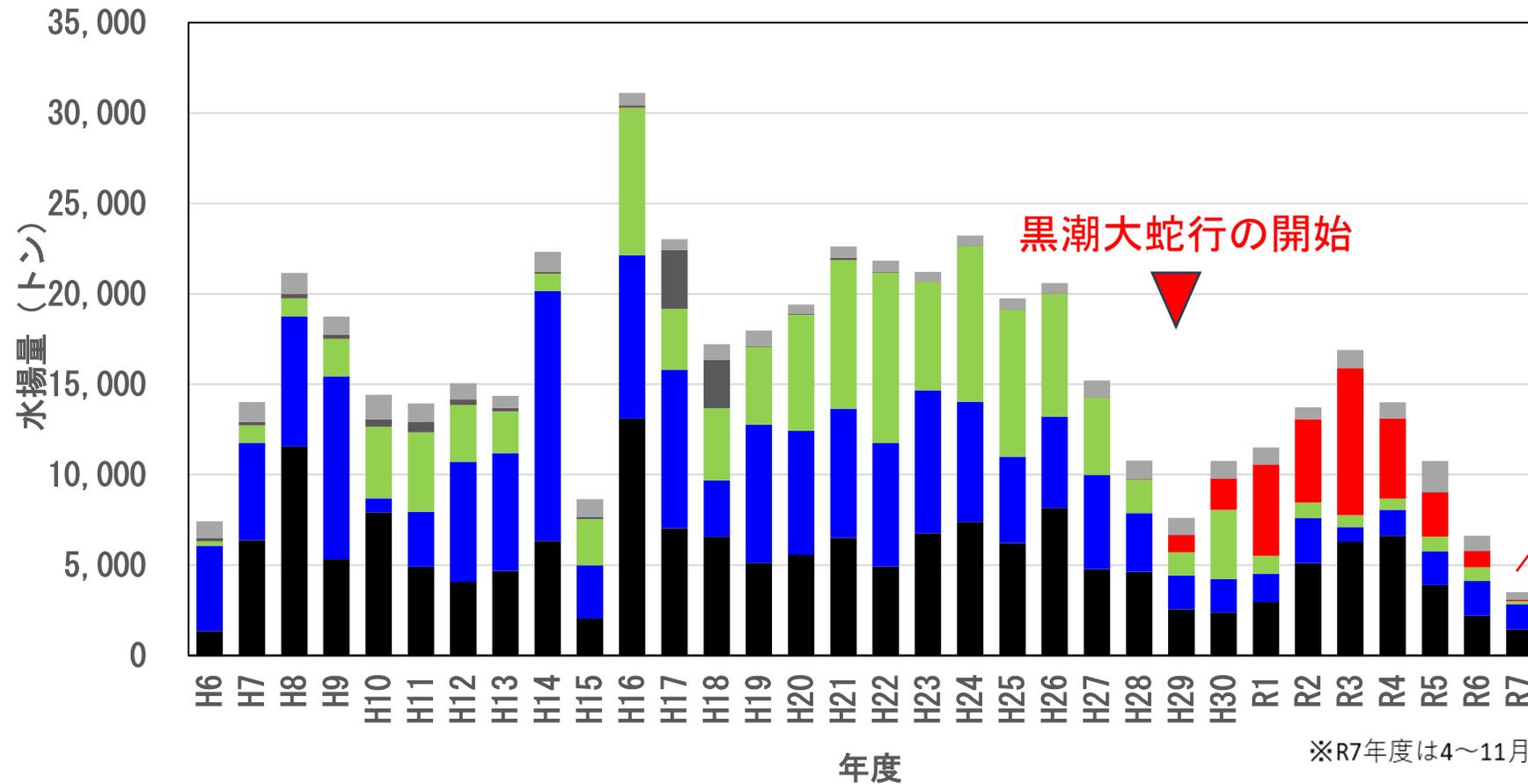
定置網における魚種別水揚量の推移



サケとスルメイカの減少、H23年度以降はブリの増加
H29年度以降はマイワシの増加が顕著

※いわて大漁ナビより

沖合底びき網における魚種別水揚量の推移

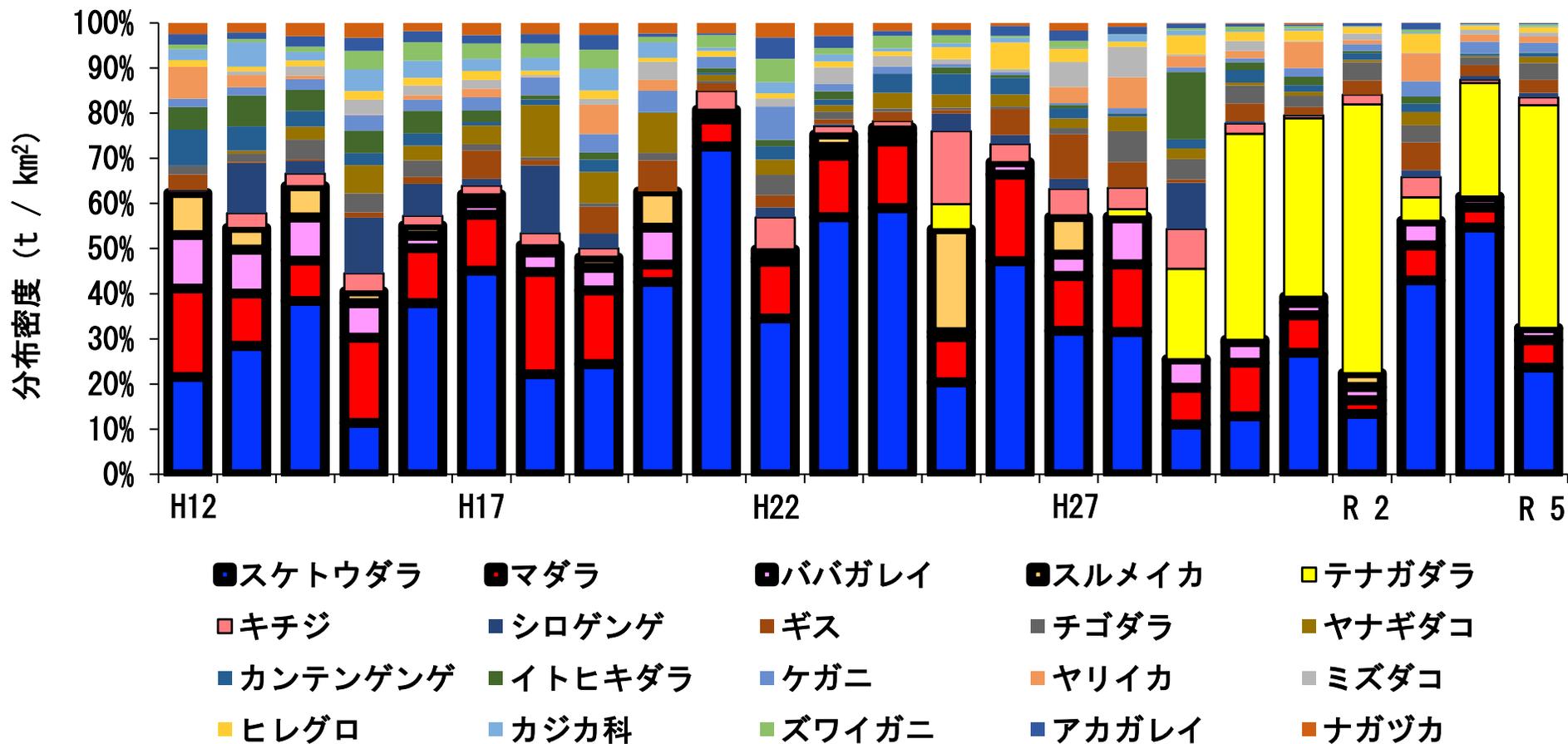


※いわて大漁ナビより

スルメイカは減少、マダラはH16~H27年度に増加
 スケトウダラは安定、H29年以降はサバ類の増加

漁業指導調査船「岩手丸」沖合底びき網調査の魚種組成

上位20分類別の分布密度



～H28年：スケトウダラ、マダラ、ババガレイ、スルメイカで半分以上。
 H29年～：テナガダラが全体の50%以上を占める年が増えた。

いわて大漁ナビ 魚種別水揚量の増減

※統計的に有意 ($P < 0.01$) な魚種

定置網 81魚種 (分類) 抽出

増加している22魚種 ※ 暖水性魚種中心

ブリ、マイワシ、サワラ、マダラ、ヒラメ、シイラ、その他イワシ類、フグ類、その他タイ類
マダイ、その他ソイ類、エイ類、スズキ、アナゴ類、ホウボウ、アイナメ、キハダマグロ
クロソイ、その他カジカ類、ババガレイ、マカジキ、クロウシノシタ (水揚量が多い順)

減少している12魚種 ※ 冷水性魚種中心

サケ、スルメイカ、カタクチイワシ、サンマ、マンボウ類、オオメマス、タナゴ類
イカナゴ、マスノスケ、その他のサケ、チカ、アカイカ (水揚量が多い順)

沖合底びき網 72魚種 (分類) 抽出

増加している5魚種 ※ 増加魚種は少ない

サバ類、キチジ、マイワシ、その他カサゴ類、ブリ (水揚量が多い順)

減少している17魚種 ※ 多くの魚種で減少

スルメイカ、その他ギョルイ、タコ類、アナゴ類、アカイカ、サメ類、チゴダラ、アンコウ類
ホッケ、その他イカ類、ケガニ、メヌケ類、エビ類、その他アイナメ類、アイナメ、オオメマス
メバル類 (水揚量が多い順)

➤ 深場 (低水温環境) の魚種を対象としており、増加する魚種が少なく、全体の水揚量が減少

黒潮大蛇行終息後の海洋環境



報道発表

令和7年8月29日

気象庁

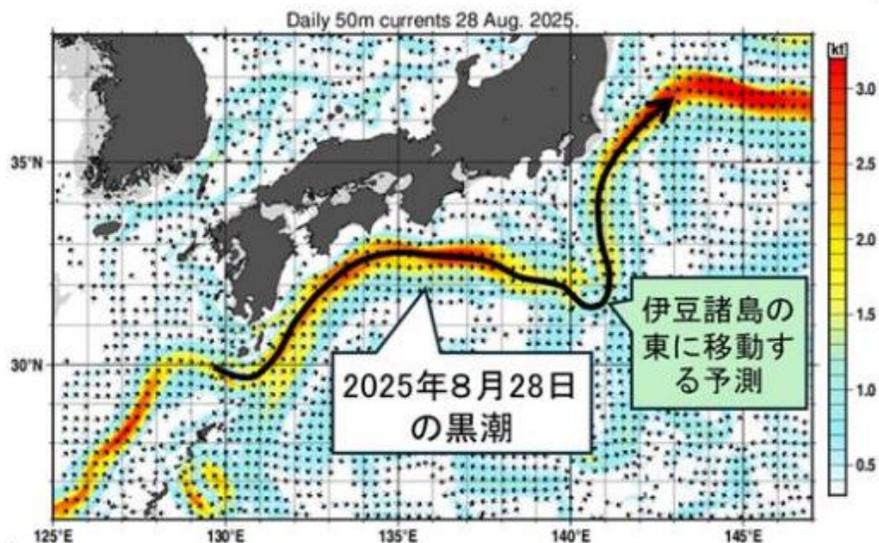
海上保安庁

いのちとくらしをまもる
防災減災

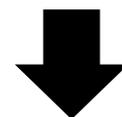
黒潮大蛇行の終息について

～過去最長の7年9か月継続～

2017年8月に発生した黒潮大蛇行は7年9か月継続し、2025年4月に終息しました。

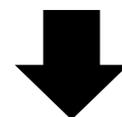


R7年4月：黒潮大蛇行は終息したと判断
(気象庁)



黒潮大蛇行終息後の懸念事項

- ・津軽暖流の強勢、親潮の弱勢は継続中
- ・温暖化による海面加熱は継続中

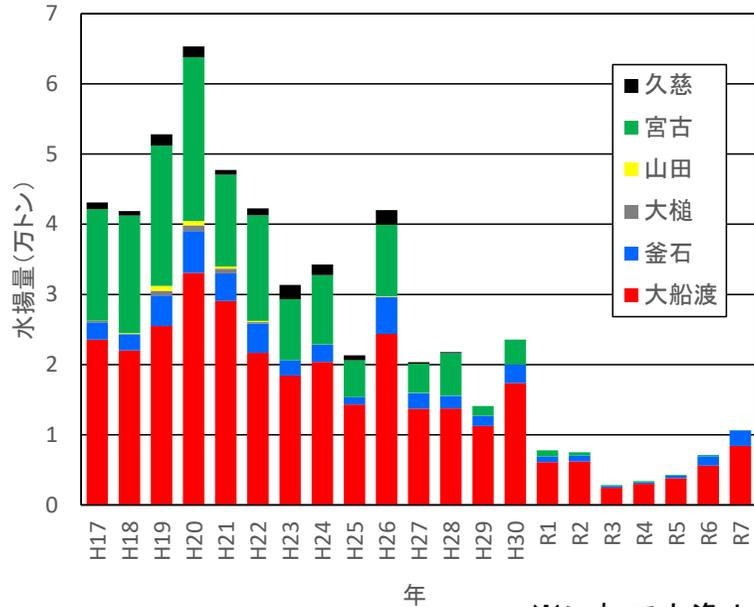


黒潮大蛇行発生（H29年）以前と同等の
海洋環境に戻る事は難しい？

- ・モニタリングと高水温対策は今後も重要

トピック 1：サンマの漁獲状況

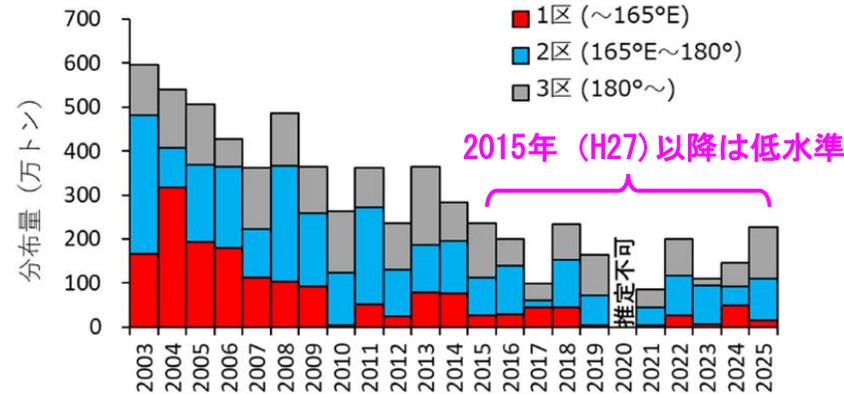
岩手県の市場別水揚量の推移



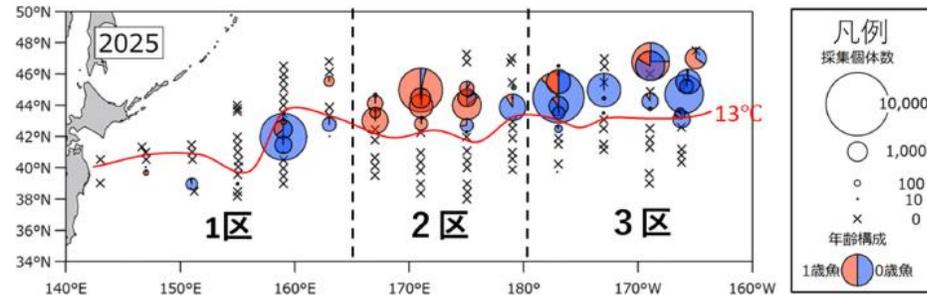
※いわて大漁ナビより

- R 7 年漁期は10,642トンの水揚
⇒前年比：1.5倍！
ただし、過去20年平均値の4割程度

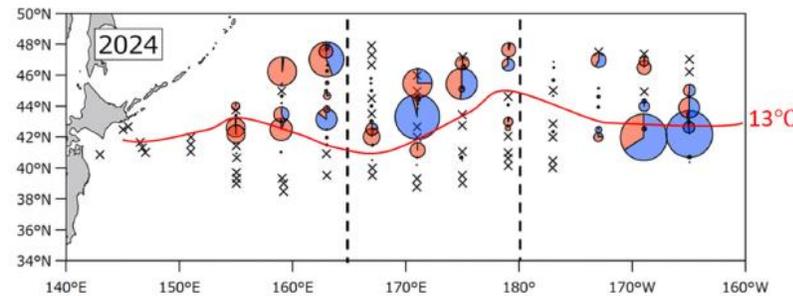
令和7年度漁期前分布量調査



- ・ 漁期前調査において、2区で大型魚の分布が多かったが、分布量全体は低水準。
- ・ 漁期序盤に大型魚の漁獲量が多く、その後は減少
⇒漁期前予測とほぼ一致



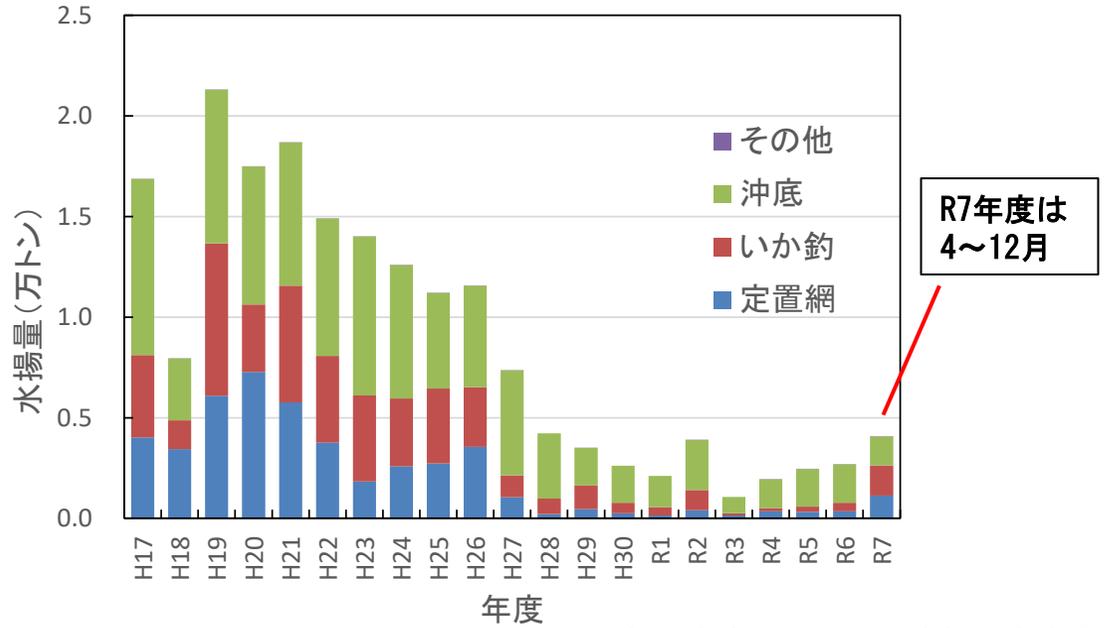
- ・ 豊漁の要因？
漁場形成の近海化
餌環境の改善



※ (国研) 水産研究教育機構より

トピック2：スルメイカの漁獲状況

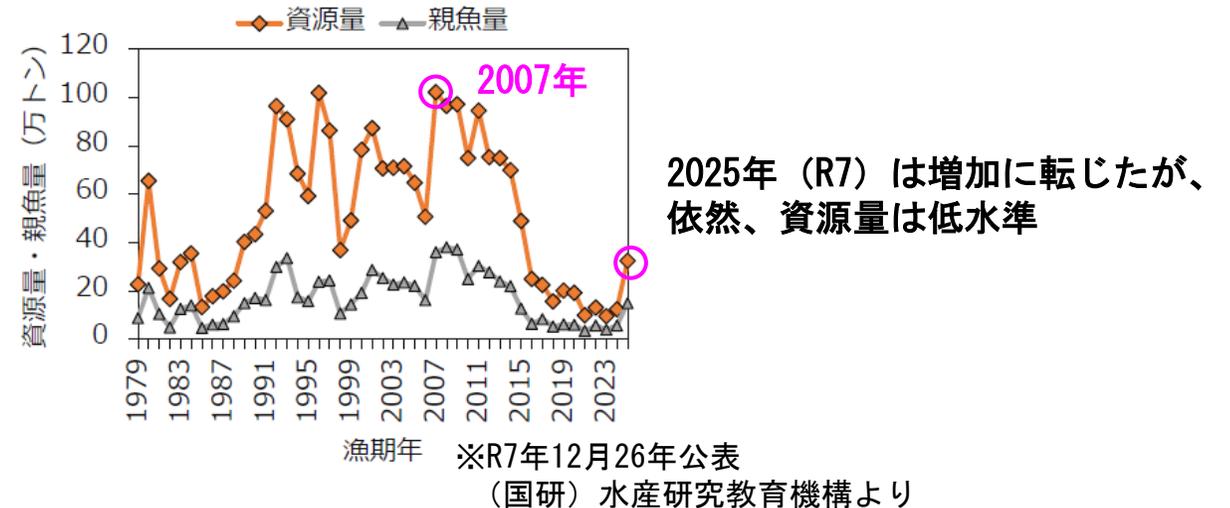
岩手県の漁法別水揚量の推移



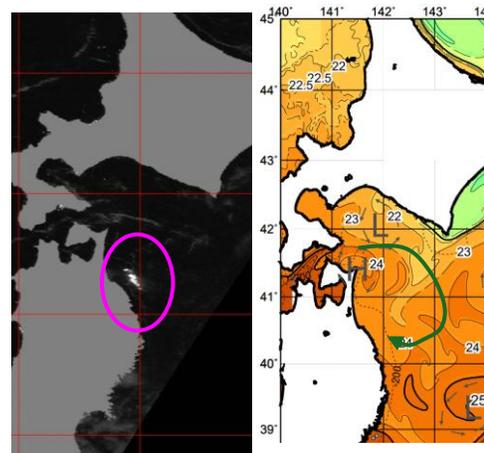
※いわて大漁ナビより（生鮮、全市場）

- R7年度：12月までに4,074トン水揚
⇒前年同比：1.5倍！
ただし、過去20年平均値の5割程度

冬季発生系群の資源量と親魚量の推移



漁獲量が増えた要因は？



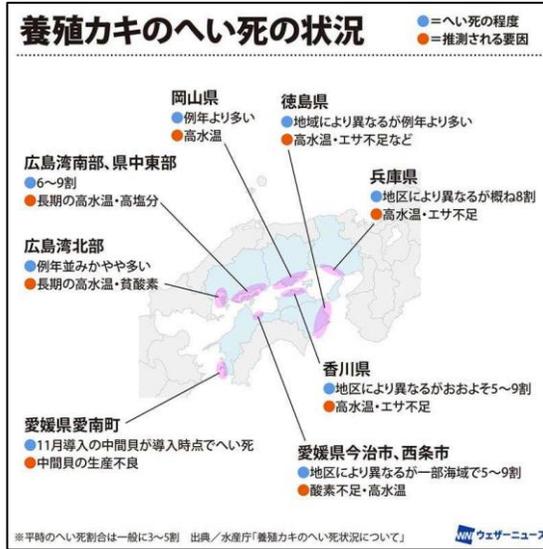
- ①三陸海域に稚魚が回流
- ②津軽暖流が渦を形成し、
岩手県北部～青森県沖に漁場が成立

R7年9月12日
夜間画像（左）：いわて大漁ナビ
水温図（右）：JAFIC

トピックス3：養殖カキのへい死状況

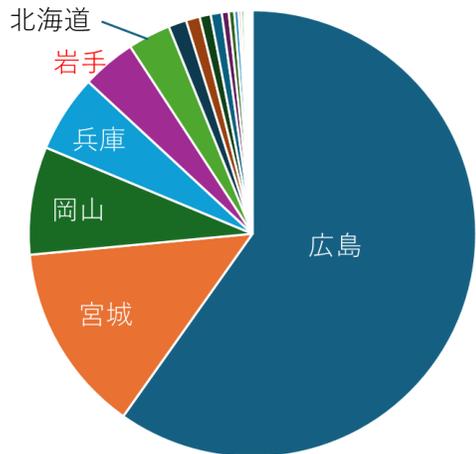
【令和7年秋季に養殖カキの大量へい死が問題化】

- ・瀬戸内海の養殖カキの漁場において多いところでは7～9割のへい死を確認
- ・宮城県でも例年以上のへい死の発生が確認されたが、瀬戸内海以外の地区での確認されず
- ・岩手県では大量へい死は確認されず



【参考】

養殖カキの主な生産地 産地別生産量割合(令和5年)



国内生産量149,064トン

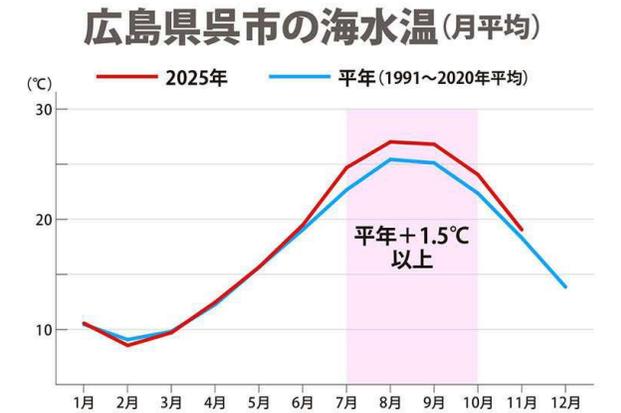
瀬戸内海6県の生産量
→110,611トン(74%)
→うち広島 89,192トン(60%)

※ 岩手 5,834トン(4%)
宮城 20,363トン(14%)

出典:水産庁「養殖カキのへい死状況」

【大量へい死の要因】

- ・夏季高水温の長期化
→産卵の繰り返しによる疲弊
- ・少雨等による河川水減少
→高塩分化による脱水症状
栄養分流入低下による餌不足
- ・風の影響による海中の酸素不足



出典:広島県水産海洋技術センター

《広島県水産海洋技術センターの見解》

夏季へい死症候群*と推察

※フランスのカキ大量死で命名された症候群

気象等の「環境要因」

カキの「生理特性」

複合して発症

【夏季へい死症候群によるへい死対策】

- ・高水温対策
養殖物の深吊りによる表層高水温の回避
- ・衰弱対策
三倍体カキ種苗を活用した高水温下産卵での衰弱軽減
- ・付着物対策
温湯処理等による付着物除去で生育向上